

# 学級活動指導案

指導者 小野 建

1. 日 時 平成17年11月10日(金)3校時
2. 学 級 2年3組 男子19名 女子13名 合計32名 南校舎3階  
(授業会場)
3. 主 題 家庭学習を見直そう
4. 主題について

学習指導要領では特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」であり、学級活動の内容は3つに分類される。本時はその中の(2)「個人および社会の一員としての在り方、健康や安全に関わること」及び(3)「学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」に関わる教材である。生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲・態度を育成することは「生きる力」の育成をめざしており、障害学習の基礎づくりを担う学校教育の重要な課題である。この時期に自分の学習の取り組みについてもう一度見直し、問題点の改善策を考えさせ、意欲を喚起することは大変有意義な活動と考える。

本学級は4月に学級編成を終え、7ヶ月が過ぎた集団である。1学期には宿泊研修、体育祭の応援作り、2学期には文化祭を経験し、集団としての団結力を深めてきた。しかし、学習集団としては未熟な点が多く、じっくりと時間をかけて問題解決に向けて考えるということが不得意な生徒が多い。2学期後半の今、2学期最後のテストとなる第三回実力テストを間近に控えている。授業・家庭学習とも学習そのものに意識を高めていかなければならない時期ではあるが、まだまだ自分の意識が学習に向かわせることができない、行動化できない状態にある。4月から家庭学習を提出するように呼びかけを行っているためほとんどの生徒が提出はしているが、内容が薄かったり、学習量が少なかったりといった問題点が見られる。学習状況アンケートを実施してその実態をさらに追求すると、「毎日勉強している」と答えた生徒が55.1%であり、「ときどき勉強している」と答えた生徒が41.3%だった。このことから学習への関心は高いことが分かる。しかし、一日の学習時間については「0～30分」と答えた生徒が24.1%、「30分～1時間」と答えた生徒が37.9%、「1時間～1時間30分」と答えた生徒が34.4%だった。また、「自分の学習時間に満足かどうか」という質問については、満足と感じている生徒は48.2%であり、不満と感じている生徒は51.7%だった。このことから自分の学習時間については不十分であると感じているものが学級の半数もいるということから学習時間は改善させていかなければならない問題であると思われる。さらに、そのアンケートではその背景といえる「集中して勉強が出来ない」「学習の仕方が分からない」といった問題を抱えて悩んでいる姿も浮き彫りとなった。そこで本授業では家庭学習の取り組み方についてもう一度考え、意欲を喚起させることをねらいとしたい。

本授業では、まずアンケートの結果をもとにこの家庭学習への取り組みが個人の悩みではあるものの学級の皆が抱える問題であることを意識させ、話しあう必然性を高めさせ、意欲的に話し合わせたい。また、「学習に集中できない」「何をどのように学習したらいいか分からない」といった課題について話し合わせる際には、なかなか生徒が考えられないことが予想されるので、考えるよりどころを明確なことばで与え、生徒と題材とのかかわりを深めさせたい。また、生徒同士の関わりを深めさせ、個の悩みを話し合わせることをとおして、課題を乗り越えさせたいと考える。この授業をとおして家庭学習をがんばろうという意欲を引き出し、学習を進める方法と学習内容、集中した時間を作る方法を発見させたい。そして、2週間後に迫る第三回実力テストの学習計画作り、テスト勉強へとつなげていきたい。

## 5 指導計画

2年生2学期の学習に関する特別活動の大まかな流れ

- \* 第二回実力テストの学習計画作案
- \* 第二回実力テスト反省
- \* 家庭学習に関するアンケート
- \* 学習することの意義について
- \* 家庭学習の進め方について(本時)
- \* 第三回実力テストの学習計画作案

## 6 本時の達成目標

- (1) 自分の家庭学習の進め方について考え、その改善策を書き表すことができる。
- (2) 家庭学習の進め方を仲間と話し合うことを通じて、自ら学習に立ち向かう気持ちを作ることができる。

## 7 本時の評価の観点

- (1) 自分の家庭学習の進め方について考え、その改善策を書き表すことができたか。(ワークシート、発表)
- (2) 家庭学習の進め方を仲間と話し合うことを通じて、自ら学習に立ち向かう気持ちを作ることができたか。  
(ワークシート、発表)

8 本時の展開

段階	時間	教師の活動	生徒の活動	評価の視点	配慮事項	学習媒体・教材・教具	
意識化	振り返る	10	<p>1.ある生徒の悩みを話す。</p> <p>2.アンケート結果を提示する。</p> <p>3.本時の学習課題を提示する。</p>	<p>1.ある生徒の悩みの話しを聞く。</p> <p>2.アンケートの結果をみて、感想を発表する。みな同じ悩みを抱えていることを知る。</p> <p>・学習時間を確保できない。</p> <p>・何をどのように勉強すればいいかわからない。</p> <p>3.学習課題を確認し、本時の内容を予想する。</p>	自分持っている悩みが皆同じであることがわかる。	<p>・授業の導入として、ある生徒が学習のことで悩んでいることを話し、学習状況アンケートの実施、さらに本時の学習内容へと学習過程を推し進めたい。(必然性)</p> <p>・アンケートの結果から自分だけが悩みを持っているのではなく、皆悩んでいると感じさせたい。</p> <p>8～10名程度から感想を求めたい。</p>	ワークシート 紙板書  紙板書
具体化	みんなで考える・自分自身を振り返る	10	<p>4.学習時間を確保するための工夫を発表させる。</p> <p>(1)書かせる。</p> <p>(2)発表しあう。</p> <p>(3)他の人の発表から自分で取り組みたいことを発表しあう。</p>	<p>4.学習時間を確保するための工夫を発表する。</p>	4.学習時間を確保するための工夫を発表できる。	<p>アドバイスを考えさせるための視点を与えたい。</p> <p>(よりどころ)(ことば)</p> <p>・時間の効果的な使い方</p> <p>・疲れているから寝てからやる。</p> <p>・疲れているから風呂に入ってすっきりしてからやる。</p> <p>・テレビを我慢する。</p> <p>・見たい番組を絞って勉強時間にあてる。</p>	ワークシート
			<p>5.何をどのように学習すればよいかアドバイスを考えさせ、発表させる。</p> <p>(1)書かせる。</p> <p>(2)発表させる。</p> <p>(3)他の人の発表から自分で取り組みたいことを発表しあわせる。</p> <p>(4)優れた家庭学習ノートを見せる。</p> <p>6.教師の経験談、教科の先生からのアドバイスを読む。</p>	<p>5.何をどのように学習すればよいかアドバイスを考え、発表させる。</p>	5.他の人にアドバイスをできたか。他の人の発表を聞き、自分が取り組みたいことを発表できたか。	<p>・アドバイスを考えるためのよりどころを与える。</p> <p>・予習が出来ないと悩んでいる人に予習の方法をアドバイスしよう。</p> <p>・数学だったら、どんな予習をすればいいか。</p> <p>・効果的な学習をしている例を紹介する。(5冊程度)</p>	ワークシート  拡大投影機
総合・一般化	自分のものとする	10	<p>7.授業で分かったこと、これからの決意を書かせる。</p> <p>8.7で書いたことを発表させる。</p>	<p>7.授業で分かったこと、これからの決意を書く。</p> <p>8.7で書いたことを発表する。</p>	7.自分にとって参考になったことを具体的に書けたか。自分の家庭学習をどのように変えていくか。	<p>・友達の発表内容と自分目指す姿と照らし合わせて聞かせたい。</p>	ワークシート

上田中学校 学習指導案(本時の展開) - 指導案記入の配慮事項 -

8. 本時の展開

< A > 達成度 < B > 学習速度 < C > 取り組み方(学習の仕方) < D > 見方・考え方 < E > 興味・関心 < F > 生活経験

段階	過程	時間	学 習 活 動	評価の視点・方法	指導上の留意点	学習形態・教材・教具
導入・展開・終末の3段階とする	過程の区分は、教科を積み上げてきたものには、教科内で統一して記述する	3段階ごとには、時間を記述する 10分 5分 10分である	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の流れが構造的にわかるように記述する。</li> <li><b>1つ1つの学習活動に、本時の目標を達成させるための「必然性」がある。その「必然性」に基づいた学習活動であり、流れになる。</b></li> <li>生徒の実際の活動を記入する。 □ ~ □ の具体的な行動で記述する。</li> <li>7～10項目でおさえる(番号をつける)</li> <li>教材の提示には次のことに留意する。             <ol style="list-style-type: none"> <li>良い教材                 <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりがよくわかるもの</li> <li>考えてみようとする興味を起こさせるもの</li> <li>必要性・重要性・有用性を感じるもの</li> <li>能力に応じて取り組めるもの</li> <li>多様な考え方のできるもの</li> <li>教科として創造性・発展性があるもの</li> <li>そこでの学習が一般化できたり他の学習に転移できるもの</li> <li>教科が依拠する学問がどんなものかがわかるもの</li> </ul> </li> <li>提示の仕方の工夫                 <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な生活経験や生活場面を用いる</li> <li>好奇心や驚きを感じさせて導入する</li> <li>矛盾や疑問をもたせる工夫をし、意識化を図る</li> </ul> </li> </ol> </li> <li>導入の最後に本時の学習課題を行動目標で明示する(導入は学習課題を設定するところまで)。</li> <li>展開においては、学習課題を解決するための様々な追究を行う。</li> <li>展開の最後に学習課題を解決したものを教科の特性を生かしてまとめる。</li> <li>終末において             <ol style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を知識体系に価値づけ(比較・検討, 学習したことよさ)、</li> <li>自己評価し(本時の学習課題に対して自分はどうかだったのか)、</li> <li>自己学習課題を確認する。</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の視点の記述について             <ol style="list-style-type: none"> <li>【評価の視点とは】                 <ul style="list-style-type: none"> <li>「本時の達成目標」・「本時の評価の観点」を受けてその具現化のために必要なポイント。</li> <li>指導者が確認・把握をしておかなくてはならないポイント。</li> <li>本時の目標を達成させるためによりどころとなる内容。本時に定着させたい基礎・基本。</li> <li>評価の視点は原則として「Grade」の考え方による。どこまで達成されているかを、その方法とともにG1, G2, G3で明記するものである。</li> </ul> </li> <li>【評価の視点の記述のしかた】                 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価の視点と方法を下記の例のように<b>行動目標</b>で記述する。その際どんな内容を、何をを用いて、どこまでできていけばいいのかを明示する。</li> </ul> </li> <li>【評価の方法 及び 内容】                 <ul style="list-style-type: none"> <li>評価の方法を &lt; &gt; の中に記述する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>G1 G2 G3について                             <ul style="list-style-type: none"> <li>A G1, G2については、どのような内容で評価するかを(～できる)の行動目標で記述する</li> <li>I G3については、指導の手だてを簡潔に記述する(具体的内容は左欄の指導上の留意点に記述する)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ol> </li> <li>その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>評価の視点はあくまで本時に定着させたい「基礎・基本」であるから3項目程度が適当である。</li> <li>G3については、G2に引き上げるための手だてを簡潔に記述する。その具体的方法・内容については右欄の指導上の留意点に記述する。</li> </ol> </li> </ul> <p>例</p> <p>比例と一次関数、2つの例について、対応表を使って変化の仕方の共通点、相違点を説明することができる。</p> <p>&lt; 記述内容・発表 &gt;</p> <p>G1: どちらも一定の割合で変化していることを実際の数を指摘して説明できる。一次関数は倍々関係になっていないことを根拠を述べて説明できる。一次関数は <math>a = y/x</math> とならないことを指摘できる。</p> <p>G2: 一定の割合で変化していること。一次関数は倍々関係になっていないことを説明できる。</p> <p>G3: 対応表において、あるxの値を起点として、横の変化の仕方に着目させて、既習内容である比例の特徴から思考させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左欄の評価の視点に対応して、・に示す&lt;A&gt;～&lt;F&gt;の「個人差に配慮する視点」のどれに配慮して、「基礎・基本」内容を定着させようとしているのか、また、その過程で、個にどのように配慮して指導を行うのかを、特にG3の生徒に焦点を当てて記述する。</li> <li>例えば、同じ机間指導でも、・のどの視点で配慮するかで、「よりどころ」や、用いる「ことば」は違ってくる場合がある。</li> <li>「個人差に配慮する視点」については、次のように6つの側面を考える。             <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;A&gt;達成度                 <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的・基本的知識や技能の定着度</li> <li>概念の形成の度合い</li> <li>能力の形成度の度合い</li> </ul> </li> <li>&lt;B&gt;学習速度                 <ul style="list-style-type: none"> <li>問題を把握する速さの違い</li> <li>書く速さの違い</li> <li>資料を読みとる速さ</li> <li>見通しを立てる速さ</li> </ul> </li> <li>&lt;C&gt;取り組み方(学習のしかた)                 <ul style="list-style-type: none"> <li>立ち向かう力</li> <li>最後までねばり強く追究する力</li> <li>積極性、持続性、集中性、多面性、創造性</li> <li>ノートの取り方、発表のしかた</li> <li>課題の追究のしかたの違い</li> </ul> </li> <li>&lt;D&gt;見方・考え方                 <ul style="list-style-type: none"> <li>認知スタイル(思考型と思索型 言語型とイメージ型)</li> <li>学習スタイルの違い</li> <li>思考方法や解決方法の違い(直感型、論理型、分析統合的な見方、演繹型、帰納型)</li> </ul> </li> <li>&lt;E&gt;興味・関心                 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習に立ち向かう準備状態の違い</li> <li>各教科内容や周辺学問に対する知識や興味関心の違い</li> </ul> </li> <li>&lt;F&gt;生活経験                 <ul style="list-style-type: none"> <li>生育歴</li> <li>社会・生活体験</li> <li>自己表現のしかたの違い</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の形態についても必要がある場合「形態名」を記述する。その形態を使う理由、内容、方法等については、左欄の指導上の留意点に記述する。</li> <li>資料・教具・コンピュータ等を利用する場合記述する。利用する場合等には、左欄の指導上の留意点に記述する。</li> </ul>